

江北の四季

令和2年
4月18日
第3号

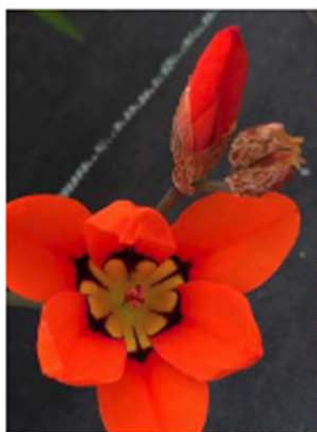
○畑仕事やガーデニング(単に庭の草むしりですが、庭仕事と言うよりかっこいい)に疲れたら、庭のガゼボ(自作のぼろあずまやです。西洋風のカタカナにするとやはりかっこいい)で、よく休憩します。ふと足下を見る



と、かわいい花がガゼボの床のレンガの間から出ていました。写真右が忘れな草、左がネモフィラです。昨年このぼれ種が芽を出して花を咲かせてくれました。



こちらはスイートピーです。昨年の花がらをそのまま放っておくと、適当に種がこぼれて今年も咲き出してくれました。



宿根草のほぎきあやめ(バビアナ)も次々と咲

き出しました。

ついこの間までは、黄色い春の花が多かったように思いますが、いつの間にか黄色の花は少なくなり、色彩豊かなものに変わってきました。夏が近づいてきます。

○問題です。「次の植物も我が家の庭にあります。きて一体何という植物でしょうか？」

どれも同じ植物です。



見ての通りキャベツです。庭の所々に五株ほど植えています。



○では第二問です。「なぜ野菜であるキャベツを花の庭に植えているのですか？」

ベツを花の庭に植えているのですか？」
「ヒントです。」
写真には金柑ですが、金柑の他、ミカン、ハッサクなど、

柑橘類も垣根代わりに何本か植えています。

まだ、少し厳しいですか。では、もう一つヒントを。フジバカマも植えており、秋には藤色の花が咲きます。この三つに共通するものです。

もうわかっていただけたでしょうか？

これらの植物には切っても切り離せない蝶がいます。春はキャベツにモンシロチョウ、夏は柑橘類にアゲハチョウ、そして秋はフジバカマにアサギマダラが寄ってきます。

答えは、「我が家の庭をバタフライガーデンにするため」なのです。

特にアサギマダラは年に一度、フジバカマが咲いているときだけ出会える貴重な蝶です。アサギマダラはその渡りのすごさで有名です。「春から夏にかけては本州等の標高一千メートルから二千メートルほどの涼しい高原地帯を繁殖地とし、秋、気温の低下と共に適温の生活地を求めて南方へ移動を開始し、遠く九州や沖縄、さらに八重山諸島や台湾にまで海を越えて飛んでいきます。海を渡って一千キロ以上の大移動です。また逆に冬の間は、暖かい南の島の洞



穴で過ごし、新たに繁殖した世代の蝶が春から初夏にかけて南から北上し、本州などの高原地帯に戻るといふことです。季節により長距離移動（渡り）をする日本で唯一の蝶なのです。（ウェブより引用 写真も）
秋に我が家の庭で出会えたときには、思わず「寄っていたらいてありがとう」と声をかけたくなるくらいです。渡りをしている

彼女たちが、小さな庭の少しのフジバカマの香りに、気がついてくれたのが嬉しくなります。彼女たちは我が家でしばしの休憩をした後、また南方へと旅立って行くのでしょうね。

○嬉しい？お話です。昨年、夏の我が家の庭で目立っていました「ドリチヨス・ラブ・ルビームーン」の種が余分に残っていますので、希望される方にお分けします。

この花はマメ科フジマメ属の春まき一年草です。つる性で伸びがとても旺盛です。

「ジャックと豆の木」の豆の木はこれかと



そのピンクの花や藤色の蔓や鞘がとても魅力があり、新風体や自由花として発想が広がります。(写真はすべてウェブから)

昨年植えた場所では、全く肥料を与えていませんでしたが、猛暑をものともせず茎がものすごく伸びました。さすがマメ科です。いい加減な



思うような植物です。放っておくと五メートルくらいは伸びますよ。グリーンカーテンとして利用できますし、何より

支柱では倒れてしまっています。我が家ではくらかけ(木製の脚立)を地面に固定して園路のアーチとして活用しています。希望される方は、連絡をください。



我が家の椿が満開
もう生け花には使えませんが満開の姿は心躍らせてくれます。